

平成26年度

印西市内遺跡発掘調査報告書

2016

印西市教育委員会

例 言

1. 本書は、平成26年度国庫補助金を受けて、市内遺跡所在確認調査として実施した前戸遺跡（第3地点）、グミ作遺跡、東海道遺跡、大畑遺跡（第2地点）、下宿遺跡、中郷遺跡（第3地点）、瓜畑第2遺跡（第2地点）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、印西市教育委員会が実施し、整理作業と原稿執筆は、印西市より委託を受けて公益財団法人印旛郡市文化財センターが実施した。
3. 調査組織は以下のとおりである。

●発掘調査（平成26年度）

調査主体者	大木 弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	湯浅静夫	印西市教育委員会生涯学習課長
	小池康久	印西市教育委員会生涯学習課文化班主幹
	鈴木圭一	印西市教育委員会生涯学習課文化班主査
	根本岳史	印西市教育委員会生涯学習課文化班学芸員（調査担当者）

●整理作業・原稿執筆（平成27年度）

調査主体者	大木 弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	湯浅静夫	印西市教育委員会生涯学習課長
	鈴木圭一	印西市教育委員会生涯学習課文化班主査
	根本岳史	印西市教育委員会生涯学習課文化班主任学芸員
調査受託者	茅野達也	公益財団法人印旛郡市文化財センター代表理事
整理担当者	中山俊之	公益財団法人印旛郡市文化財センター調査課長補佐

4. 発掘調査は平成26年度に実施した。以下、(1)所在地、(2)調査の種別、調査面積、調査期間、(3)調査担当者、(4)調査に至る経緯について概要を記す。

前戸遺跡（第3地点）（コード番号09-088）

(1)千葉県印西市松崎字前戸880番1、880番3の各一部 (2)確認調査・上層23.2㎡/166.45㎡・平成26年5月23日 (3)根本岳史 (4)個人住宅建設に先立って文化財保護法第93条の届出が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

グミ作遺跡（コード番号09-089）

(1)千葉県印西市瀬戸字グミ作453番2 (2)確認調査・上層69㎡/411㎡・平成26年6月18日 (3)根本岳史 (4)個人住宅建設に先立って文化財保護法第93条の届出が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を行った。

東海道遺跡（コード番号09-090）

(1)千葉県印西市松崎字東海道1352番5 (2)確認調査・上層96㎡/573㎡・平成26年8月27日 本調査・上層164.4㎡・平成26年10月20日～30日 (3)根本岳史 (4)個人住宅建設に先立って文化財保護法第93条の届出が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施し、遺構に影響を及ぼす範囲について本調査を実施した。

大畑遺跡（第2地点）（コード番号09-091）

(1)千葉県印西市瀬戸字法経堂1172番、1173番 (2)確認調査・上層246㎡/1,490㎡・平成26年9月9日～13日 (3)根本岳史 (4)太陽光発電施設建設に先立って文化財保護法第93条の届出が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

下宿遺跡（コード番号09-092）

(1)千葉県印西市大森字原ノ宿2300番の一部、2301番3の一部、2301番6、字下宿2284番10の一部 (2)確認調査・上層48㎡/492.55㎡・平成26年10月1日 (3)根本岳史 (4)農業用倉庫建設に先立って文化財保護法第93条の届出が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

中郷遺跡（第3地点）（コード番号09-093）

(1)千葉県印西市松崎字中郷506番2の一部 (2)確認調査・上層71㎡/490.88㎡・平成26年11月27日 (3)根本岳史 (4)社会福祉施設（放課後児童クラブ）建設に先立って文化財保護法第93条の届出が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。






瓜堀込第2遺跡（第2地点）（コード番号09-093）

(1)千葉県印西市岩戸字瓜堀込1813番1の一部 (2)確認調査・上層38㎡/385.34㎡・平成26年12月2日 (3)根本岳史 (4)個人住宅建設に先立って文化財保護法第93条の届出が提出された。それにより、埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を実施した。

5. 整理作業、報告書原稿作成ならびに印刷製本は、平成27年度国庫補助、県費補助事業として実施した。
6. 本書は、例言4. (4)を印西市教育委員会生涯学習課根本岳史、その他を公益財団法人印旛郡市文化財センター中山俊之が執筆し、編集は2名共同で行った。
7. 本書で使用した写真は、遺構は調査担当者、遺物は杉原豊氏（有限会社スギハラ）が撮影した。
8. 発掘調査に伴う測量業務は、東海道遺跡を寺田測量株式会社が印西市教育委員会より委託を受けて実施した。
9. 出土遺物及び図面・写真は、印西市教育委員会が保管している。
10. 発掘調査から報告書刊行まで、下記の機関、個人のご指導、ご教示を賜った。（敬称略・順不同）
文化庁、千葉県教育庁生涯学習部文化財課

凡 例

1. 遺構番号が付してある場合は、発掘調査時の番号を踏襲している。
2. 第1図～第4図は国土地理院発行の1/25000〔佐倉〕、〔小林〕、〔龍ヶ崎〕を、各遺跡の位置図は1/2500〔印西市基本図〕を使用している。
3. トレンチ配置図及び全体図のスクリーントーンの用例は次のとおりである。その他は各図、文中に示している。

	縄文時代住居跡、土坑		古墳時代住居跡
	奈良・平安時代住居跡、土坑、ピット		近世堅穴状遺構、土坑、溝状遺構
	攪乱、埋没谷		

4. 方位は磁北を示し、標高は東京湾平均海面からのものである。
5. 挿図中の縮尺は以下を原則としているが、詳細は個々にスケールを参照されたい。
トレンチ配置図、全体図1/400または1/200、遺構1/80、土器拓影図1/3、土器実測図1/4、石器1/3、2/3
6. 出土遺物の出土地点については、挿図の遺物番号脇に記載している。
7. 遺物法量の推定値、残存高はカッコ付で記載している。

本文目次

第1章 周辺の遺跡	1
第2章 前戸遺跡(第3地点)	4
第3章 グミ作遺跡	5
第4章 東海道遺跡	5
第5章 大畑遺跡(第2地点)	11
第6章 下宿遺跡	14
第7章 中郷遺跡(第3地点)	15
第8章 瓜堀込第2遺跡(第2地点)	16
第9章 まとめ	17

挿図目次

第1図 周辺の遺跡(1)	1	第15図 東海道遺跡1号土坑・ビット・ 出土遺物及び遺構外出土遺物	10
第2図 周辺の遺跡(2)	2	第16図 大畑遺跡(第2地点)位置図	11
第3図 周辺の遺跡(3)	2	第17図 大畑遺跡(第2地点)全体図 及び出土遺物(1)	12
第4図 周辺の遺跡(4)	3	第18図 大畑遺跡(第2地点) 出土遺物(2)	13
第5図 前戸遺跡(第3地点)位置図	4	第19図 下宿遺跡位置図	14
第6図 前戸遺跡(第3地点)全体図 及び出土遺物	4	第20図 下宿遺跡全体図及び出土遺物	15
第7図 グミ作遺跡位置図	5	第21図 中郷遺跡(第3地点)位置図	15
第8図 グミ作遺跡全体図	5	第22図 中郷遺跡(第3地点)全地図 及び出土遺物	16
第9図 東海道遺跡位置図	5	第23図 瓜堀込第2遺跡(第2地点) 位置図	16
第10図 東海道遺跡確認調査全体図	6	第24図 瓜堀込第2遺跡(第2地点) 全体図	16
第11図 東海道遺跡本調査全体図	6		
第12図 東海道遺跡1号住居跡 及び出土遺物	7		
第13図 東海道遺跡2号住居跡及び出土遺物	8		
第14図 東海道遺跡3号住居跡 及び出土遺物	9		

表目次

第1表 ビット計測表	9
------------	---

写真図版目次

- | | | | |
|-----|------------------------------|-----|-------------------------------|
| 図版1 | 1. 前戸遺跡（第3地点）調査状況 | 図版5 | 1. 東海道遺跡（本調査）1号土坑 |
| | 2. 前戸遺跡（第3地点）トレンチ
掘削状況 | | 2. 東海道遺跡（本調査）P1～P5 |
| | 3. 前戸遺跡（第3地点）1号トレンチ | | 3. 東海道遺跡（本調査）P6～P9 |
| | 4. 前戸遺跡（第3地点）1号トレンチ | | 4. 東海道遺跡（本調査）P11～P15、
1号土坑 |
| | 5. 前戸遺跡（第3地点）2号トレンチ | | 5. 大畑遺跡（第2地点）全景 |
| | 6. 前戸遺跡（第3地点）3号トレンチ | | 6. 大畑遺跡（第2地点）1号トレンチ |
| | 7. 前戸遺跡（第3地点）4号トレンチ | | 7. 大畑遺跡（第2地点）2号トレンチ |
| | 8. 前戸遺跡（第3地点）調査後 | | 8. 大畑遺跡（第2地点）3号トレンチ |
| 図版2 | 1. グミ作遺跡調査前 | 図版6 | 1. 大畑遺跡（第2地点）4号トレンチ |
| | 2. グミ作遺跡全景 | | 2. 大畑遺跡（第2地点）5号トレンチ |
| | 3. グミ作遺跡1号トレンチ | | 3. 大畑遺跡（第2地点）6号トレンチ |
| | 4. グミ作遺跡2号トレンチ | | 4. 大畑遺跡（第2地点）7号トレンチ |
| | 5. グミ作遺跡3号トレンチ | | 5. 大畑遺跡（第2地点）8号トレンチ |
| | 6. グミ作遺跡4号トレンチ | | 6. 大畑遺跡（第2地点）9号トレンチ |
| | 7. グミ作遺跡5号トレンチ | | 7. 大畑遺跡（第2地点）10号トレンチ |
| | 8. グミ作遺跡6号トレンチ | | 8. 大畑遺跡（第2地点）11号トレンチ |
| 図版3 | 1. 東海道遺跡全景 | 図版7 | 1. 大畑遺跡（第2地点）12号トレンチ |
| | 2. 東海道遺跡2号トレンチ | | 2. 大畑遺跡（第2地点）13号トレンチ |
| | 3. 東海道遺跡3号トレンチ | | 3. 大畑遺跡（第2地点）14号トレンチ |
| | 4. 東海道遺跡4号トレンチ | | 4. 大畑遺跡（第2地点）15号トレンチ |
| | 5. 東海道遺跡5号トレンチ | | 5. 大畑遺跡（第2地点）16号トレンチ |
| | 6. 東海道遺跡6号トレンチ | | 6. 大畑遺跡（第2地点）17号トレンチ |
| | 7. 東海道遺跡7号トレンチ | | 7. 大畑遺跡（第2地点）18号トレンチ |
| | 8. 東海道遺跡8号トレンチ | | 8. 下宿遺跡全景 |
| 図版4 | 1. 東海道遺跡9号トレンチ | 図版8 | 1. 下宿遺跡1号トレンチ |
| | 2. 東海道遺跡（本調査）遺構検出状況 | | 2. 下宿遺跡2号トレンチ |
| | 3. 東海道遺跡（本調査）全景 | | 3. 下宿遺跡3号トレンチ |
| | 4. 東海道遺跡（本調査）1号住居跡
遺物出土状況 | | 4. 下宿遺跡4号トレンチ |
| | 5. 東海道遺跡（本調査）1号住居跡 | | 5. 中郷遺跡（第3地点）1号トレンチ |
| | 6. 東海道遺跡（本調査）2号住居跡
遺物出土状況 | | 6. 中郷遺跡（第3地点）2号トレンチ |
| | 7. 東海道遺跡（本調査）2号住居跡 | | 7. 中郷遺跡（第3地点）3号トレンチ |
| | 8. 東海道遺跡（本調査）3号住居跡 | 図版9 | 1. 中郷遺跡（第3地点）5号トレンチ |
| | | | 2. 中郷遺跡（第3地点）6号トレンチ |

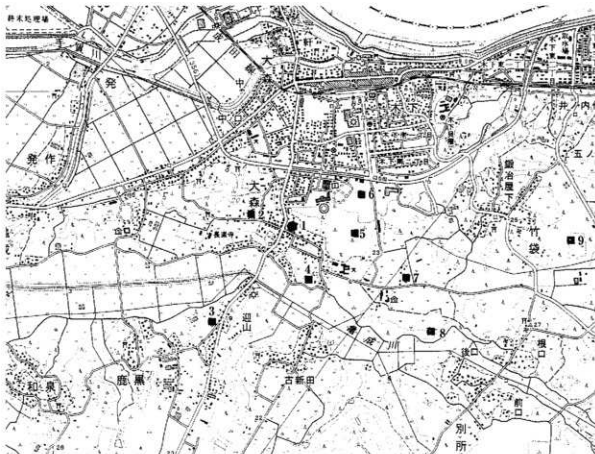
- 図版9 3. 瓜堀込第2遺跡（第2地点）調査前
4. 瓜堀込第2遺跡（第2地点）
トレンチ掘削状況
5. 瓜堀込第2遺跡（第2地点）
1号トレンチ
6. 瓜堀込第2遺跡（第2地点）
2号トレンチ
7. 瓜堀込第2遺跡（第2地点）
4号トレンチ
8. 瓜堀込第2遺跡（第2地点）調査後

- 図版10 1. 前戸遺跡（第3地点）出土遺物
2. 東海道遺跡1号住居跡出土遺物
3. 東海道遺跡2号住居跡出土遺物
図版11 1. 東海道遺跡3号住居跡出土遺物
2. 東海道遺跡P7出土遺物
3. 東海道遺跡遺構外出土遺物
4. 大畑遺跡（第2地点）出土遺物（1）
図版12 1. 大畑遺跡（第2地点）出土遺物（2）
図版13 1. 下宿遺跡出土遺物
2. 中郷遺跡出土遺物

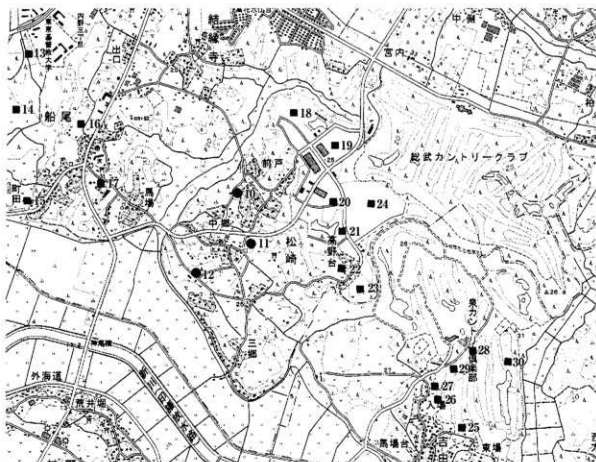
第1章 周辺の遺跡

下宿遺跡(1)は、北側を利根川、南側を手賀沼に注ぐ亀成川によって開析された東西に長い台地上に位置する。周辺の大畑遺跡第2地点(2)からは、縄文時代、弥生時代、奈良・平安時代の住居跡が、廻山遺跡(3)からは古墳時代の住居跡2軒が検出されている。下宿遺跡の南には、平安時代の住居跡を検出した八夜台遺跡(4)がある。東には、縄文時代から奈良・平安時代にわたる大規模な遺跡である天神台遺跡(7)があり、現在までに15地点の発掘調査が実施されている。その他、7世紀後半の創建と考えられる木下別所廃寺(8)があり、発掘調査の結果、法起寺式の伽藍配置と考えられている。また出土した瓦は山田寺のものと同型式で、龍角寺の流れを引くものである。その瓦を供給していたのが曾谷ノ窪瓦窯跡(5)であり、近接する曾谷ノ窪遺跡(6)では、製鉄関連遺構が検出されている。

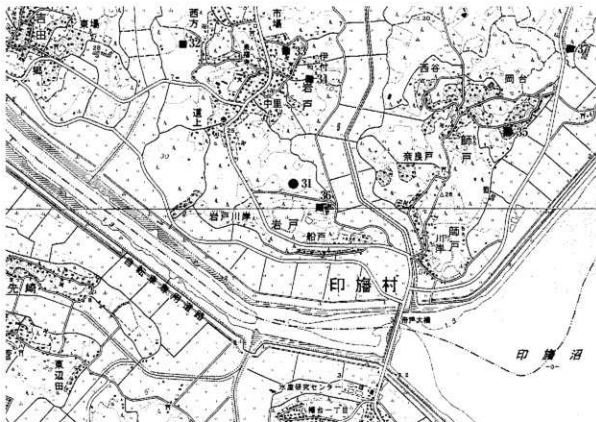
前戸遺跡(10)、東海道遺跡(11)、中郷遺跡(12)の南側には新川、印藤沼があり、それに注ぐ師戸川等に開析された小支谷が深く入り込んだ台地上に位置し、近年発掘調査が増えている地域である。船尾白幡遺跡(13)では旧石器時代の細石器、縄文時代、弥生時代の住居跡、奈良・平安時代の掘立建物跡が検出されている。戸神川沿いの低湿地に位置する西根遺跡(14)では縄文時代後晩期の土器が多量に出土した他、古墳時代の塚、舟の部材等、低湿地遺跡ならではの貴重な木製品が出土している。向ノ地遺跡(15)は過去に4地点にわたって調査が実施されているが、古墳時代前期の住居跡の他、弥生時代、奈良・平安時代の住居跡が検出されており、木戸場遺跡(16)は奈良・平安時代の住居跡が主体的に検出されている。油免遺跡(17)の奈良・平安時代住居跡からは甕G、畿内産土師器等の出土が特筆される。松崎遺跡群の1~Ⅲ(18~24)は工業団地の整備に伴う発掘調査が実施され、旧石器時代から中近世にわたる遺構、遺物が検出され



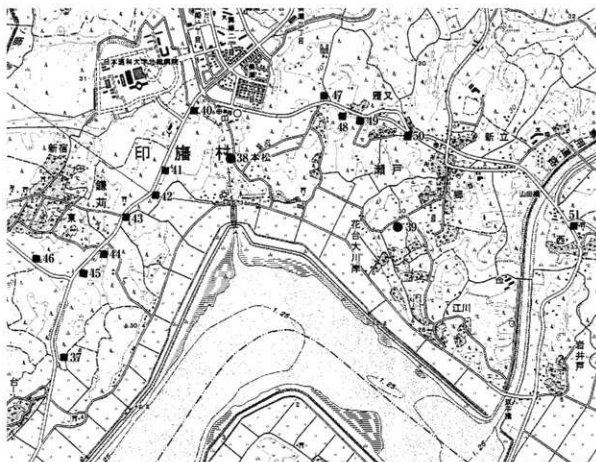
第1図 周辺の遺跡(1)



第2図 周辺の遺跡②



第3図 周辺の遺跡③



第4図 周辺の遺跡(4)

ている。特にⅠ遺跡(18)、Ⅱ遺跡(19)、Ⅲ遺跡(21)では、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡が主体的に検出されている。東の台地には縄文時代早期の土器群が検出されたトケ前遺跡(30)、方墳である仲内古墳(27)、木戸口古墳(29)、奈良・平安時代の集落である逢昌路遺跡(25)、木戸口遺跡(28)、中世墳墓が検出された仲内遺跡(26)がある。

瓜堀込第2遺跡(第2地点)(31)周辺での発掘調査例は少ないが、近接する岩戸道遺跡(36)では古墳時代後期の集落跡が検出されている。縄文時代では早期の炬穴が検出された岩戸広台遺跡(32)、加曾利B式期の石神台貝塚(34)、安行式期の戸ノ内貝塚(35)がある。その他岩戸城跡内岩戸市場遺跡(33)からは中世の遺構群、ちばろく遺跡(37)では近世の塚が調査されている。

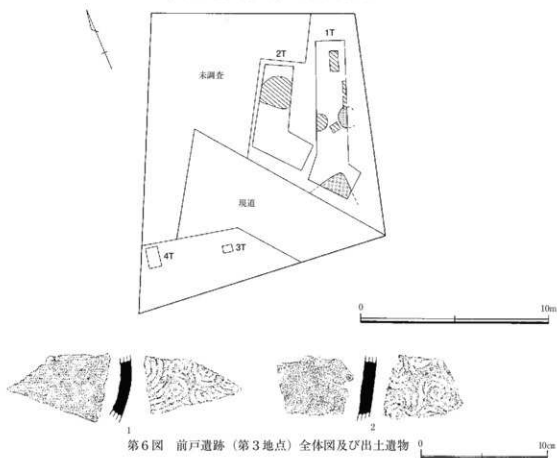
グミ作遺跡(38)、大畑遺跡(第2地点)(39)は、印旛沼を南に望む台地上に位置している。周辺には瀬戸師戸線改良工事に伴い、老作遺跡(40)、炭焼1号墳(41)、炭焼2号墳(42)、滝尻遺跡(43)、前原第1遺跡(44)、前原第2遺跡(45)、古用地遺跡(46)が調査されている。老作遺跡からは落し穴状の土坑が検出され、炭焼1号墳、2号墳は周縁部だけの調査であるが、2号墳からは弥生時代後期の住居跡が確認された。滝尻遺跡、前原第1遺跡からは弥生時代後期住居跡、前原第2遺跡からは旧石器時代の剥片が出土している。北には近世の炭焼台所在塚(47)、和田谷津塚(49)があり、井戸向遺跡(50)からは掘立柱建物跡等の近世の遺構群の他旧石器時代の遺物集中地点が検出されている。大木古台墳群(48)は2基の円墳からなる。2号墳からは埴輪列が検出され、大量に出土した埴輪の中には円筒埴輪の他、人物埴輪、馬形埴輪が含まれている。東の山田諏訪遺跡(51)からは奈良・平安時代の集落が検出されている。

第2章 前戸遺跡（第3地点）（第5・6図、図版1・10）

1. 遺跡の位置（第5図） 西印旛沼の北岸約1km、標高約24mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物（第6図） 奈良・平安時代住居跡1軒、土坑1基を検出し、遺物は奈良・平安時代の土師器、須恵器が出土した。図示したのは、須恵器の胴部片（1、2）で同一個体である。外面は平行タタキ痕、内面は同心円状の当て具痕がみられる。色調は灰色で、胎土には白色粒子を多量に含む。



第5図 前戸遺跡（第3地点）位置図



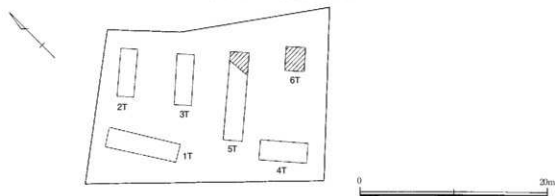
第6図 前戸遺跡（第3地点）全体図及び出土遺物

第3章 グミ作遺跡 (第7・8図、図版2)

1. 遺跡の位置 (第7図) 西印旛沼の北岸約0.5km、標高約32mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物 (第8図) 遺構、遺物とも検出されなかった。



第7図 グミ作遺跡位置図



第8図 グミ作遺跡全体図

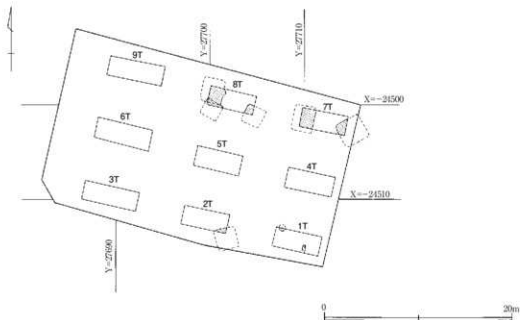
第4章 東海道遺跡 (第9～15図、図版3・10・11)

1. 遺跡の位置 (第9図) 新川の北岸約0.9km、標高約25mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。本調査については公共座標に基づいた方眼杭を設定し、検出された遺構の精査、作図、写真撮影を実施した。



第9図 東海道遺跡位置図

3. 遺構と遺物(第10・11図) 確認調査においては、奈良・平安時代住居跡6軒、土坑1基が検出され、遺物は土師器、須恵器が出土している。本調査の対象となった遺構は、奈良・平安時代住居跡3軒、土坑1基、ピット15基である。



第10図 東海道遺跡確認調査全体図

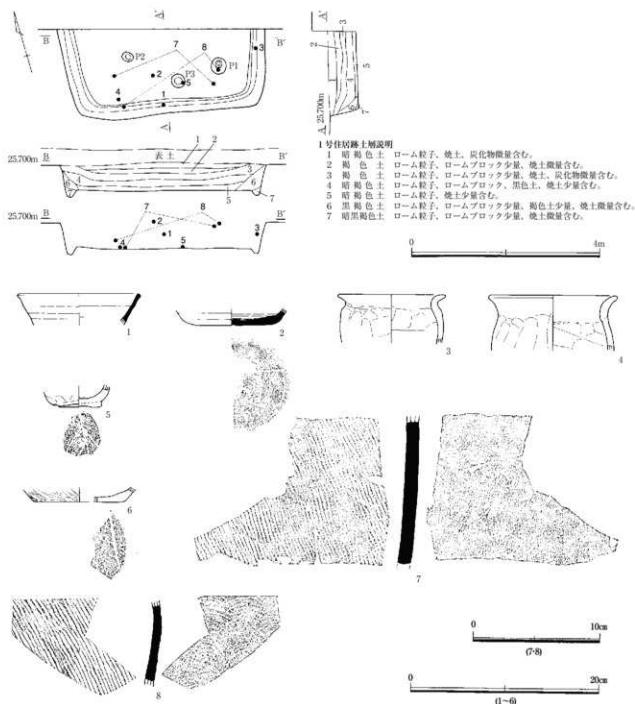


第11図 東海道遺跡本調査全体図

1号住居跡(第12図) 約1/2の検出で調査区域外に拡がっている。平面形は方形を呈するものと考えられ、カマドは検出されていない。規模は検出部分で4.3m、深さは確認面から0.58mを測る。床面はほぼ平坦であり、ピットは3本検出されている。P1は径0.32~0.36m、深さ0.43m、P2は径0.16~0.24m、深さ0.42m、P3は径0.28~0.32m、深さ0.29mを測る。周溝は検出部分で全周しており、東壁で幅0.36m、深さ0.1m、南壁で幅0.24~0.32m、深さ0.07m、西壁で幅0.34m、深さ0.08mである。

出土遺物 1は須恵器環で、残存率が口縁部約1/6、口径(13.0cm)、器高(3.1cm)を測り、内外面ともロクロナデ、色調は灰褐色を呈する。胎上には白色粒子を多量、長石、石英を少量含む。2の須恵器環は残

存率が底部約2/3、底径(10.6cm)、器高(1.8cm)を測り、体部は内外面ともロクロナデ、底部は回転ヘラケズリ、色調は黄灰色を呈する。胎土には白色粒子、長石、石英を少量含む。3の土師器甕は、残存率が口縁部約1/3、口径(11.4cm)、器高(5.1cm)を測り、口縁部は横ナデ、胴部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、色調は褐色を呈する。胎土には白色粒子多量、赤色粒子微量、長石、石英を少量含む。4の土師器甕は、残存率が口縁部約1/4、口径(13.4cm)、器高(5.9cm)を測り、口縁部は横ナデ、胴部外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、色調は褐色を呈する。胎土には白色粒子多量、黒色粒子、長石、石英を少量含む。5の土師器甕は、底部のみ全周している。底径6.0cm、器高(2.4cm)を測り、外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、底部には木葉痕が残り、色調は赤褐色を呈する。胎土には白色粒子多量、赤色粒子、長石、石英を少量含む。

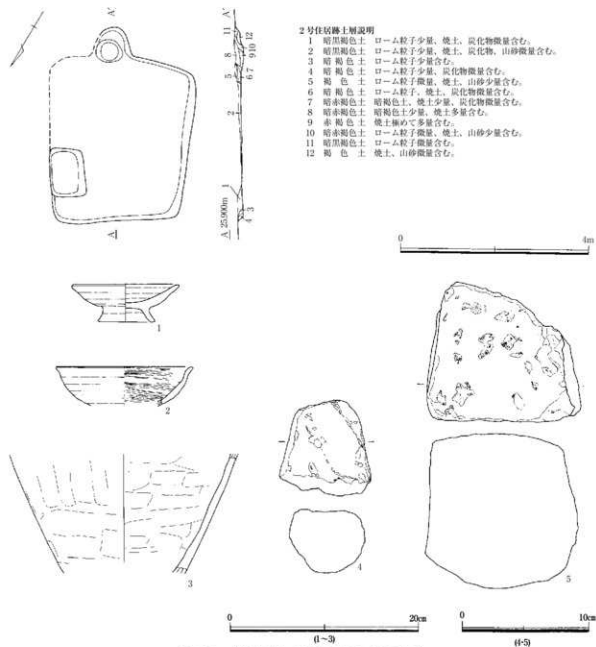


第12図 東海道遺跡1号住居跡及び出土遺物

6の土師器甕は、底部約1/4の残存で、底径(9.6cm)、器高(1.6cm)を測り、外面は棒状工具によるミガキ、内面は剥離が著しく、底部には木葉痕が残り、色調は褐色を呈する。胎土には白色粒子、長石、石英を多量、雲母片を少量含む。7、8は須恵器の甕で同一個体である。外面は縦位、斜位の平行タタキ痕、内面はヘラナデの他、同心円状の当て具痕がみられる。色調は黄灰色を呈し、胎土には白色粒子を少量含む。

2号住居跡(第13図) 平面形は南北方向にやや長い長方形を呈しており、南北方向で3.42m、東西方向で2.94mを測るが、東壁約1/2は削平されている。深さは確認面から最深部で0.1mである。柱穴と考えられるピットは検出されていない。東壁際北寄りには方形のピットが検出されており、長軸1.04m、短軸0.72m、深さは0.37mを測る。カマドは南壁に構築されており、煙道部壁まで約0.6m、袖は検出されていない。径0.48~0.58m、深さ0.04mの掘り込みを有し、径が約0.7mの範囲に焼土が残存している。

出土遺物 1は土師器高台付坏で高台部を一部欠損しており、口径11.4cm、器高4.0cm、底径(6.1cm)を測る。内外面ともロクロナデ、色調は黄褐色を呈し、胎土には白色粒子多量、長石、石英を少量含む。2の土師器坏は残存率約1/3で口径(14.5cm)、器高(4.1cm)、内外面ロクロナデ後内面ヘラミガキ、色調は橙褐

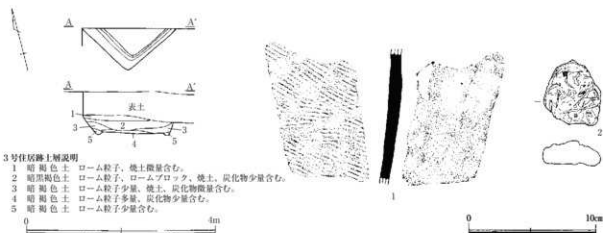


第13図 東海道遺跡2号住居跡及び出土遺物

色を呈し、胎土には白色粒子多量、黒色粒子少量を含む。3の土師器甕は胴部約1/2の残存で、器高(12.6cm)を測り、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ、色調は明褐色から褐色を呈し、胎土には白色粒子、長石、石英を多量含む。4は支脚の一部と考えられ、残存長(7.5cm)、重量(224g)を測り、被熱の痕跡がみられる。5は表面の状態から砥石と考えられるが、形状から4の支脚の基部かもしれない。重量は1,430gを測る。

3号住居跡(第14図) コーナー部のみの検出である。深さは確認面から0.38mを測り、周溝は南壁で幅0.14m、深さ0.05m、西壁で幅0.32m、深さ0.08mである。

出土遺物 1は須恵器甕の胴部片で、外面は平行タキ痕、内面はナデられているが、一部に当て具痕が残されている。2は焼成粘土塊で、残存部で長軸5.1cm、短軸4.5cmを測る。



第14図 東海道遺跡3号住居跡及び出土遺物

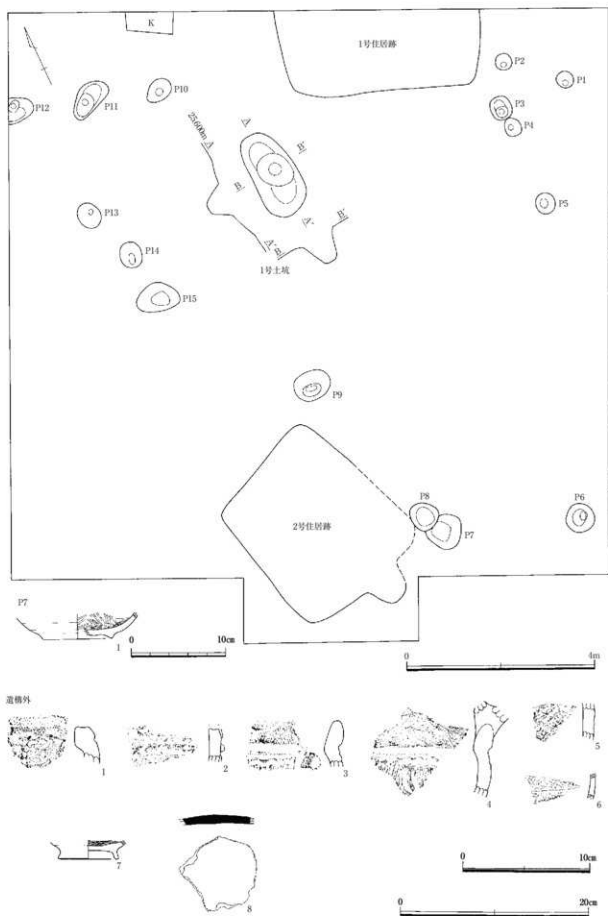
1号土坑(第15図) 南北方向に長い不整な楕円形を呈し、長軸1.88m、短軸0.98mを測る。中央部がビット状に深くなっており、両側がテラス状になる。テラス部の深さが0.22m、ビット部の深さが0.55mである。

ビット(第15図) 計測値は第1表のとおりである。P7からは遺物が出土している。土師器の高台付坏で体部下半～底部約1/3の残存であり、底径(7.4cm)、器高(2.7cm)を測り、外面ロクロナデ、内面はヘラミガキ、色調は淡橙褐色を呈する。胎土には白色粒子、黒色粒子少量、長石、石英多量含む。

第1表 ビット計測表

ビット番号	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	ビット番号	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)
P 1	0.38	0.34	0.37	P 9	0.8	0.62	0.41
P 2	0.34	0.32	0.21	P 10	0.62	0.44	0.12
P 3	0.48	0.45	0.25	P 11	0.94	0.54	0.39
P 4	0.38	0.33	0.19	P 12	0.68	0.54	0.48
P 5	0.44	0.44	0.38	P 13	0.51	0.44	0.19
P 6	0.62	0.6	0.23	P 14	0.58	0.46	0.16
P 7	0.74	0.72	0.08	P 15	0.92	0.58	0.15
P 8	0.62	0.42	0.07				

遺構外出土遺物(第15図) 1～6は縄文土器で、1～5は阿玉台式土器である。1、2は隆帯に沿って1条の結節沈線が加えられ、3は隆帯に沈線に沿わせ、区画内は縦位の条線を充填している。4は耳状の把手が付され、区画内は波状の浮線を加え、縦位の条線、蛇行する沈線が垂下している。5は縄文のみ施文されているもの、6は後期の粗製土器である。7は土師器の高台付坏で、底部は全周している。外面は回転ヘラケズリ、内面はヘラミガキ、黒色処理が施されている。外面の色調は橙褐色、胎土には白色粒子多量、長



第15図 東海道遺跡1号土坑・ピット・出土遺物及び遺構外出土遺物

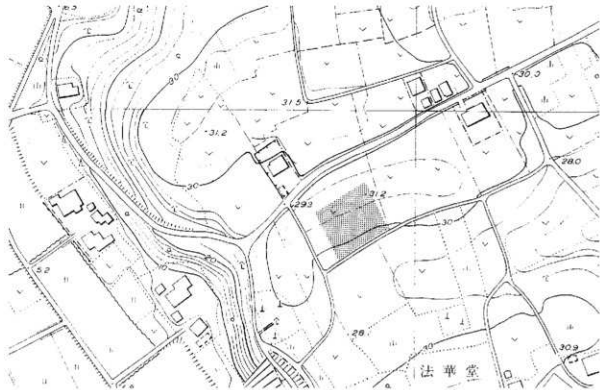
石、石英少量含む。8は須恵器環の底部片で、外面手持ちヘラケズリ、内面クロロナデ、色調は灰褐色、胎土には白色粒子、長石、石英を多量、雲母片を少量含む。

第5章 大畑遺跡（第2地点）（第16～18図、図版5～7・11・12）

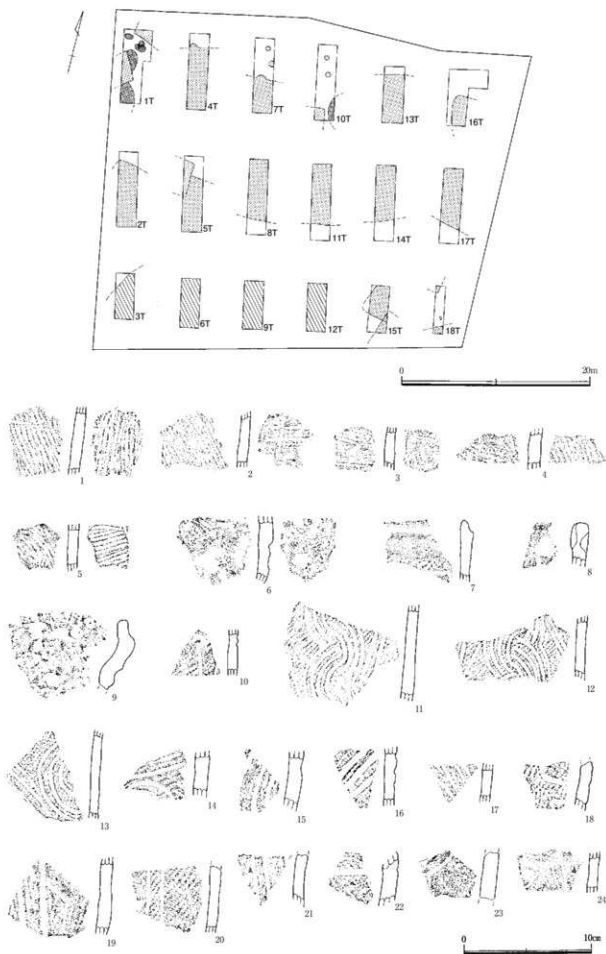
1. 遺跡の位置（第16図） 印旛沼の北岸約400m、標高約30mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物（第17・18図） 縄文時代住居跡3軒、土坑4基、古墳時代住居跡12軒、奈良・平安時代住居跡6軒、土坑5基を検出し、遺物は縄文土器、弥生土器、古墳時代から奈良・平安時代の土師器、須恵器、近世陶器が出土した。

縄文土器は、条痕文系土器、堀之内式土器、加曾利B式土器が出土している。1～6が条痕文系土器で内外面とも条痕のみみられるものである。7～28が堀之内式土器である。7は口唇部直下に沈線が廻り、8は円形の刺突が加えられ、9は円形の刺突が加えられた把手状の部分である。10は先端が蕨手状の沈線が垂下し、11、12は同一個体で弧状の集合沈線が交互に施文されている。13～15は円弧状の集合沈線が施文され、16、17は斜行する沈線、18は蕨手状を呈するものと考えられる。19～21は縦位、22、23は横位の沈線がみられる。24、25は2本単位の沈線が施され、26は縦位の紐線文が貼り付けられ、それに沿って沈線が施されている。27、28は沈線区画による縄文帯を施文したものである。29～36は加曾利B式土器で、29、30は口唇部に刻み目を加え、沈線が廻り、縄文を施文している。31は口唇部に押捺がみられる。32、33は同一個体で、格子目状に沈線が施されている。34は口唇部の刻み目が加えられ、沈線が乱雑に垂下し、35、36は斜行する沈線が加えられている。37～50は縄文のみ施文されているものである。

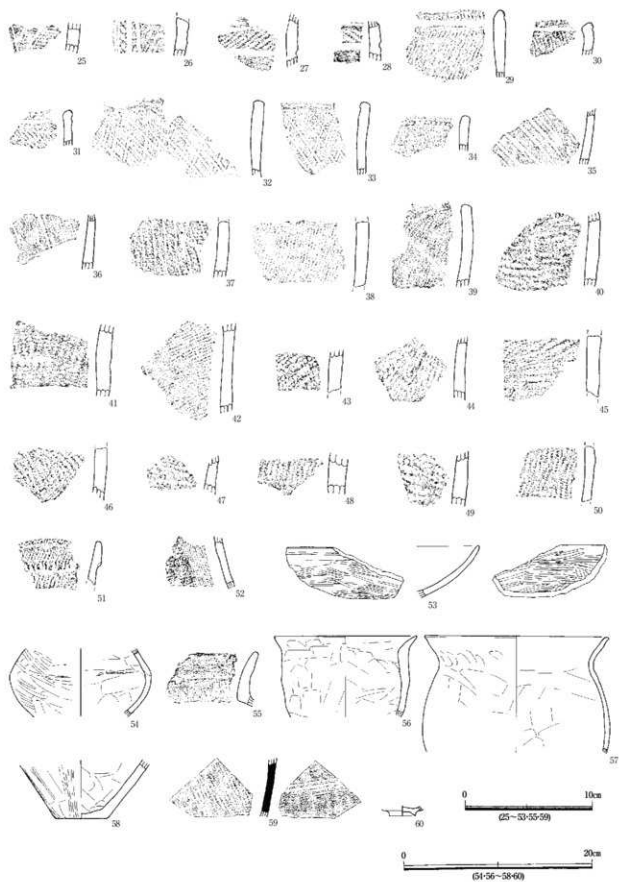
弥生土器は51、52のみの出土で、51は複合口縁を呈し、多条によるLR縄文を施文し、口縁部下端に押捺



第16図 大畑遺跡（第2地点）位置図



第17図 大畑遺跡（第2地点）全体図及び出土遺物(1)



第18図 大畑遺跡 (第2地点) 出土遺物(2)

による刻み目が増えられている。52は櫛描で鋸歯状文を描出したものと考えられる。

53は土師器環で内外面ともヘラミガキ、色調は明赤褐色を呈する。胎土には白色粒子多量、長石、石英を少量含む。54は土師器埴の胴部で最大径(15.0cm)を測り、外面はヘラケズリ後ヘラミガキ、内面はヘラナデ、色調は橙褐色を呈する。胎土には、白色粒子、長石、石英を少量含む。55は土師器甕で口縁部内外面横ナデ、頸部には縦位の刷毛目、色調は明黄褐色を呈し、赤色粒子を少量含む。56は土師器甕で残存率約1/4、口径(15.1cm)、器高(8.5cm)を測り、口縁部内外面横ナデ、胴部外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ、色調は淡赤褐色を呈する。胎土には白色粒子、長石、石英を多量含む。57は土師器甕で残存率約1/4、口径(19.4cm)、器高(12.2cm)を測り、口縁部内外面横ナデ、胴部外面ヘラケズリ、頸部には指頭圧痕が残る。内面ヘラナデ、色調は明赤褐色を呈する。胎土には白色粒子、長石、石英を多量含む。58は土師器甕の底部で全周している。底径5.6cm、器高(6.2cm)を測り、外面がヘラケズリ後ヘラミガキ、内面はヘラナデ、色調は赤褐色を呈する。胎土には白色粒子、長石、石英を多量含む。59は須恵器甕で外面は平行タタキ痕、内面は横位の刷毛目が残る。色調は黄灰色、胎土には白色粒子を微量含む。

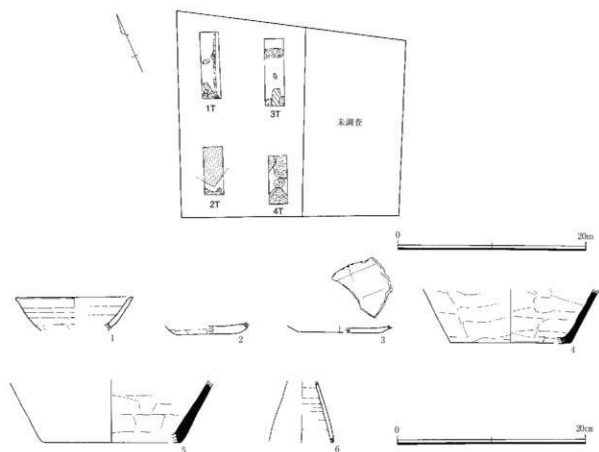
60は猪口の底部で全周している。底径2.7cm、器高(1.0cm)を測り、色調は灰白色を呈する。

第6章 下宿遺跡 (第19・20図、図版7・8・13)

1. 遺跡の位置 (第19図) 亀成川の北岸約400m、標高約24mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物 (第20図) 奈良・平安時代住居跡1軒、近世竪穴状遺構5基、土坑5基、溝状遺構1条を検出し、奈良・平安時代の土師器、須恵器、近世磁器が出土した。1は土師器環で口縁部約1/6が残存し、口径(12.4)cm、器高(3.5)cmを測る。口縁部から体部の内外面はロクロナデ、体部下端は手持ヘラケズリで、色調は橙褐色で、胎土には長石、石英を多量含む。2、3は土師器環の底部で、2は底径(6.6)cm、器高(1.2)cmを測る。底部外面は手持ヘラケズリ、内面はロクロナデ、色調は赤褐色を呈する。胎土には長石、石英を多量含む。3は底径(8.8)cm、器高(0.8)cmを測る。底部外面は手持ヘラケズリ、内面はロクロナデ、線刻がみられる。色調は明赤褐色を呈する。胎土には長石、石英を多量含む。4、5は須恵器甕で、4は底径(12.8)cm、器高(5.7)cmを測る。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ、色調は灰黄褐色を呈する。胎土には白色粒子、長石、石英を多量含む。5は底径(14.8)cm、器高(6.7)cmを測る。外面は斜位の平行タタキ痕、下端はヘラケズリ、内面はヘラナデ、色調は褐色を呈する。胎土には白色粒子、長石、石英を多量含む。6は染付徳利で体部上部約1/6残存である。



第19図 下宿遺跡位置図



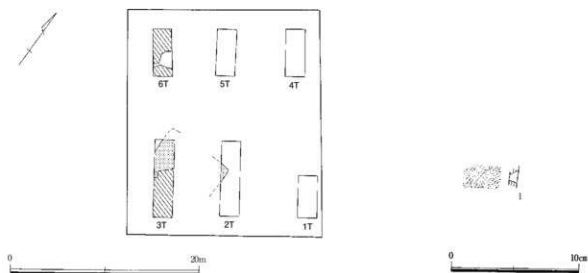
第20図 下宿遺跡全体図及び出土遺物

第7章 中郷遺跡 (第3地点) (第21・22図、図版8・9・13)

1. 遺跡の位置 (第21図) 西印旛沼の北岸約500m、標高約23mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物 (第22図) 古墳時代後期住居跡1軒を検出し、古墳時代の土師器の他弥生土器が出土した。
1は弥生土器の胴部で縄文が施文されている。



第21図 中郷遺跡 (第3地点) 位置図



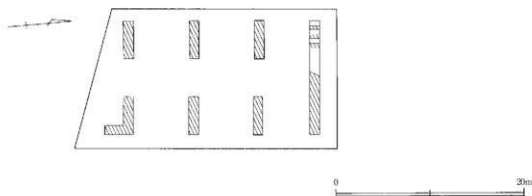
第22図 中郷遺跡（第3地点）全地図及び出土遺物

第8章 瓜堀込第2遺跡（第2地点）（第23・24図、図版9）

1. 遺跡の位置（第23図） 西印旛沼の北岸約500m、標高約23mの台地上。
2. 調査の方法 調査区域内に任意のトレンチを設定し、表土除去後遺構確認を実施した。
3. 遺構と遺物（第24図） 遺構の検出はなく、遺物は古墳時代土師器の小片が出土したのみで図示し得るものはない。



第23図 瓜堀込第2遺跡（第2地点）位置図



第24図 瓜堀込第2遺跡（第2地点）全体図

第9章 まとめ

前戸遺跡（第3地点）

今回の調査区の西側及び南側では印西市道の改良工事に伴う調査が実施されており、古墳時代終末期から平安時代に至る住居跡が検出されている。今回の調査区からも奈良・平安時代の住居跡、土坑が検出されている。今回の調査区は遺跡範囲のほぼ中央部に位置することから、遺跡範囲全域に集落が展開している可能性が高い。

グミ作遺跡

今回の調査では遺構、遺物とも検出されておらず、また周辺地域での調査例もないことから、遺跡としての内容は不明と言わざるを得ない。調査例の増加が待たれる。

東海道遺跡

過去に千葉県教育振興財団による調査が実施されており、縄文時代中期の住居跡、奈良・平安時代の住居跡が検出されている。今回の調査では縄文時代の遺構は検出されなかったが、阿玉台式Ⅲ、Ⅳ式から加曽利EⅠ式の土器が出土しており、周辺に集落が展開していることが窺える。奈良・平安時代については、台地の南側に集落が展開することが判明した。また西に隣接する前戸遺跡も同様の様相であることから、同一の集落として捉えなければならないのは、すでに指摘されているとおりである。

大畑遺跡（第2地点）

平成25年度に調査された第1地点の南側に今回の調査地点になるが、古墳時代の住居跡が主体的に検出されている。調査区南側のトレンチでは埋没谷が検出されている。調査区の南東側に谷が存在しており、この延長上になると考えられる。埋没谷の縁辺まで住居跡が検出されており、この台地上には濃密に住居跡が分布していると考えられる。

下宿遺跡

本道跡からは、奈良・平安時代の住居跡の他、近世の遺構が検出されている。西には南北に木下街道が通っており、またこの地は大森宿の一部であることから、それに関連する遺構の可能性が考えられる。

中郷遺跡（第3地点）

過去に調査された第1地点、第2地点は隣接しており、縄文時代、弥生時代、古墳時代後期の住居跡が検出されている。今回の調査では、出土遺物から古墳時代後期と考えられる住居跡が1軒のみ検出され、その他弥生時代の土器片が僅かに出土したのみであるが、古墳時代後期の集落が台地上に展開することが考えられる。

瓜塚込第2遺跡（第2地点）

第1地点は今回の調査区の南に隣接しており、古墳時代後期の住居跡を6軒検出した。今回の調査でも同様の住居跡の検出が予想されたが、ほぼ全域にわたって攪乱を受けているようであり、遺構は検出されなかった。どのように集落が展開するかは、今後の調査の課題である。

参考文献

- 内田龍哉他 「印西市新井堀Ⅱ遺跡・前戸遺跡-印西市道00-026号線道路改良に伴う埋蔵文化財調査報告書-」
 ㈱千葉県文化財センター 2004年
- 伊藤弘一 「前戸遺跡-印西市道00-116号線埋蔵文化財調査-」 ㈱印西市文化財センター 2005年
- 日暮冬樹 「平成17年度～平成24年度印西市内遺跡発掘調査報告書」 印西市教育委員会 2014年
- 黒沢 崇 「印西市東海道遺跡-印西市道00-026号線道路改良に伴う埋蔵文化財調査報告書-」
 (公財) 千葉県教育振興財団 2014年
- 印西市教育委員会 「木下街道伝」 1998年
- 鈴木行廣他 「印西市歴史読本 中世・近世編」 印西市教育委員会 2011年

写 真 图 版



1. 前戸遺跡（第3地点）調査状況



2. 前戸遺跡（第3地点）トレンチ掘削状況



3. 前戸遺跡（第3地点）1号トレンチ



4. 前戸遺跡（第3地点）1号トレンチ



5. 前戸遺跡（第3地点）2号トレンチ



6. 前戸遺跡（第3地点）3号トレンチ



7. 前戸遺跡（第3地点）4号トレンチ



8. 前戸遺跡（第3地点）調査後



1. グミ作遺跡調査前



2. グミ作遺跡全景



3. グミ作遺跡1号トレンチ



4. グミ作遺跡2号トレンチ



5. グミ作遺跡3号トレンチ



6. グミ作遺跡4号トレンチ



7. グミ作遺跡5号トレンチ



8. グミ作遺跡6号トレンチ



1. 東海道遺跡全景



2. 東海道遺跡2号トレンチ



3. 東海道遺跡3号トレンチ



4. 東海道遺跡4号トレンチ



5. 東海道遺跡5号トレンチ



6. 東海道遺跡6号トレンチ



7. 東海道遺跡7号トレンチ



8. 東海道遺跡8号トレンチ

図版4



1. 東海道道跡9号トレンチ



2. 東海道道跡(本調査)遺構検出状況



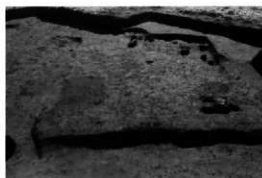
3. 東海道道跡(本調査)全景



4. 東海道道跡(本調査)1号住居跡遺物出土状況



5. 東海道道跡(本調査)1号住居跡



6. 東海道道跡(本調査)2号住居跡遺物出土状況



7. 東海道道跡(本調査)2号住居跡



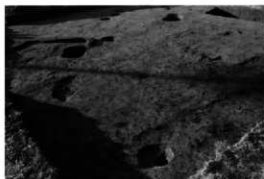
8. 東海道道跡(本調査)3号住居跡



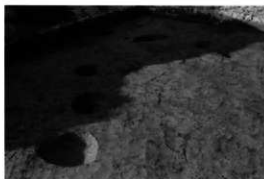
1. 東海道遺跡（本調査）1号土坑



2. 東海道遺跡（本調査）P1～P5



3. 東海道遺跡（本調査）P6～P9



4. 東海道遺跡（本調査）P11～P15、1号土坑



5. 大畑遺跡（第2地点）全景



6. 大畑遺跡（第2地点）1号トレンチ



7. 大畑遺跡（第2地点）2号トレンチ



8. 大畑遺跡（第2地点）3号トレンチ

図版6



1. 大畑遺跡 (第2地点) 4号トレンチ



2. 大畑遺跡 (第2地点) 5号トレンチ



3. 大畑遺跡 (第2地点) 6号トレンチ



4. 大畑遺跡 (第2地点) 7号トレンチ



5. 大畑遺跡 (第2地点) 8号トレンチ



6. 大畑遺跡 (第2地点) 9号トレンチ



7. 大畑遺跡 (第2地点) 10号トレンチ



8. 大畑遺跡 (第2地点) 11号トレンチ



1. 大畑遺跡 (第2地点) 12号トレンチ



2. 大畑遺跡 (第2地点) 13号トレンチ



3. 大畑遺跡 (第2地点) 14号トレンチ



4. 大畑遺跡 (第2地点) 15号トレンチ



5. 大畑遺跡 (第2地点) 16号トレンチ



6. 大畑遺跡 (第2地点) 17号トレンチ



7. 大畑遺跡 (第2地点) 18号トレンチ



8. 下宿遺跡全景



1. 下宿遺跡1号トレンチ



2. 下宿遺跡2号トレンチ



3. 下宿遺跡3号トレンチ



4. 下宿遺跡4号トレンチ



5. 中郷遺跡(第3地点)1号トレンチ



6. 中郷遺跡(第3地点)2号トレンチ



7. 中郷遺跡(第3地点)3号トレンチ



8. 中郷遺跡(第3地点)4号トレンチ



1. 中郷遺跡（第3地点）5号トレンチ



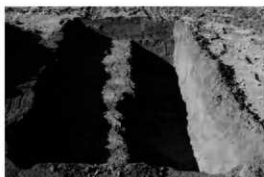
2. 中郷遺跡（第3地点）6号トレンチ



3. 瓜堀込第2遺跡（第2地点）調査前



4. 瓜堀込第2遺跡（第2地点）トレンチ掘削状況



5. 瓜堀込第2遺跡（第2地点）1号トレンチ



6. 瓜堀込第2遺跡（第2地点）2号トレンチ



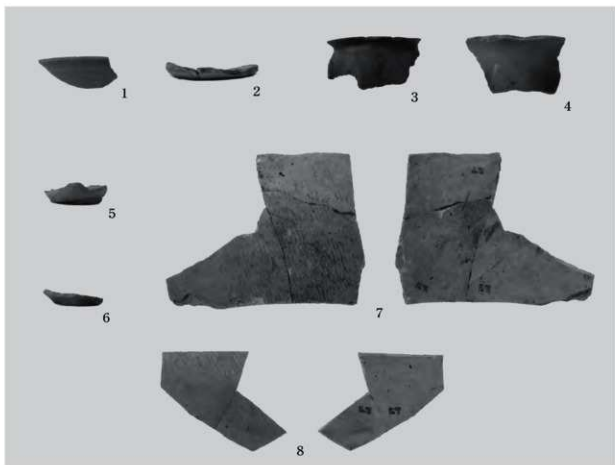
7. 瓜堀込第2遺跡（第2地点）4号トレンチ



8. 瓜堀込第2遺跡（第2地点）調査後



1. 前戸遺跡（第3地点）出土遺物



2. 東海道遺跡1号住居跡出土遺物



3. 東海道遺跡2号住居跡出土遺物



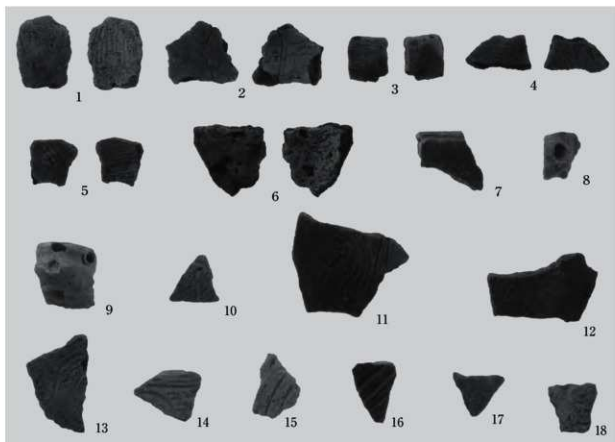
1. 東海道道跡3号住居跡出土遺物



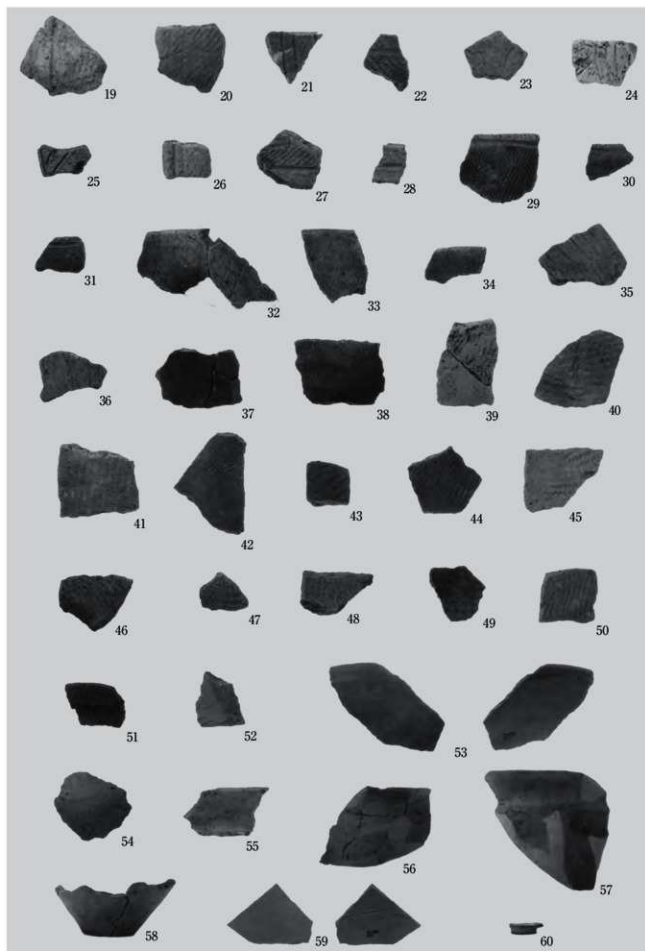
2. 東海道道跡P7出土遺物



3. 東海道道跡遺構外出土遺物



4. 大畑道跡(第2地点)出土遺物(1)



1. 大畑遺跡(第2地点)出土遺物(2)



1. 下宿遗址出土遗物



2. 中郟遗址出土遗物

報告書抄録

ふりがな	へいせい26ねんちゅうしゅうちくねんじょうしんぎいしなひいせきはつてつちゅうしゅうりこうしよ							
書名	平成26年度市内内遺跡発掘調査報告書							
編者名								
著者名								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編集者名	中山 雅之							
編集機関	公益財団法人 印旛郡市文化財センター							
編集機関所在地	〒265-0025 千葉県佐倉市春路1-1-4 TEL:043-461-6126							
発行年月日	2016年3月10日							
ふりがな 刊行誌名	コード	ふりがな 巻名	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査内容	
まんとくいせき (古墳遺跡)	12233	09-098	ちばけんいんぎいしなひいせきまつざきあきまほ38002ZL、39中ひいせき 土曜館内内遺跡字遺跡17000番1、35あ一部	33° 46' 46"	140° 8' 19"	2014年9月23日	23,2nd/166,45nd	個人発掘調査
てみさくいせき 古墳遺跡	12233	09-099	ちばけんいんぎいしなひいせきあきまほ38002ZL	33° 46' 32"	140° 12' 19"	2014年9月16日	69nd/411nd	個人発掘調査
とうかいどういせき 東海道遺跡	12233	09-099	ちばけんいんぎいしなひいせきあきまほ38002ZL	33° 46' 43"	140° 8' 22"	2014年9月27日	96nd/57nd	個人発掘調査
とうかいどういせき 東海道遺跡	12233	09-099	ちばけんいんぎいしなひいせきあきまほ38002ZL	33° 46' 43"	140° 8' 22"	2014年9月27日～ 2014年10月10日	164nd	個人発掘調査
おむはひいせき (古墳遺跡)	12233	09-091	ちばけんいんぎいしなひいせきあきまほ38002ZL	33° 46' 19"	140° 13' 58"	2014年9月9日～ 2014年9月12日	236nd/1,496nd	土曜発掘発掘調査
しもむくいせき 古墳遺跡	12233	09-092	ちばけんいんぎいしなひいせきあきまほ38002ZL	33° 49' 31"	140° 8' 36"	2014年10月11日	48nd/492,55nd	市民発掘発掘調査
あゆみいせき (古墳遺跡)	12233	09-093	ちばけんいんぎいしなひいせきあきまほ38002ZL	33° 46' 36"	140° 8' 38"	2014年11月27日	71nd/490,86nd	社会発掘発掘調査
ひらけのひいせき (古墳遺跡)	12233	09-094	ちばけんいんぎいしなひいせきあきまほ38002ZL	33° 45' 23"	140° 10' 16"	2014年12月27日	26nd/285,34nd	個人発掘調査
発行誌種別	種別	刊行時代	古墳遺跡		古墳遺跡		特記事項	
まんとくいせき (古墳遺跡)	発掘誌	奈良時代	奈良・平安時代		奈良・平安時代			
てみさくいせき 古墳遺跡	発掘誌	縄文時代、古墳時代	奈良時代、古墳時代		奈良時代、古墳時代			
とうかいどういせき 東海道遺跡	発掘誌	奈良時代	奈良・平安時代		奈良・平安時代			
とうかいどういせき 東海道遺跡	発掘誌	奈良時代	奈良・平安時代		奈良・平安時代			
おむはひいせき (古墳遺跡)	発掘誌・報告誌	縄文時代、古墳時代	奈良時代、古墳時代		縄文時代、古墳時代			
しもむくいせき 古墳遺跡	発掘誌	縄文時代	奈良時代		奈良時代			
あゆみいせき (古墳遺跡)	発掘誌・報告誌	古墳時代	古墳時代		古墳時代			
ひらけのひいせき (古墳遺跡)	発掘誌	古墳時代	古墳時代		古墳時代			

平成26年度
印西市内遺跡発掘調査報告書
平成28年3月7日 印刷
平成28年3月10日 発行

編集 公益財団法人印旛郡市文化財センター
千葉県佐倉市春路1丁目1番地4
発行 印西市教育委員会
千葉県印西市大森2364-2
印刷 株式会社 エリート情報社 [印刷出版局]
千葉県成田市東和415-10